次世代受粉用資材【ビーフライ】



「ビーフライ」とは従来のハチに替わり、清潔で安全な管理下で育成した農業用受粉ハエ（ヒロズキンバエ）を用いて行うサービスです。

近未来型農法として注目されている「ビーフライ」。近年のミツバチ不足対策として、厳寒期のミツバチが活動しにくい環境での併用利用、ミツバチアレルギーの方など。既にたくさんの方にご利用いただいております。

「ビーフライ」もっと詳しく知りたい、試してみたい、疑問・質問など、是非お問い合わせください。

【ビーフライ】の特徴

1．温度差に強く、雨天・曇天でもＯＫ

比較	活動温度	温度幅	特徴
ミツバチ	18℃～25℃	8℃	紫外線必要
マルハナバチ	15℃～28℃	14℃	紫外線必要
ヒロズキンバエ	10℃～35℃	26℃	紫外線不要

2．花や果実を傷付けず、人間も刺さない

ビーフライは受粉の動きがとても優しいので花や果実を傷つけません。そのため、奇形果の発生が少ないと言われています。またハチのように人間を攻撃することもありません。

3．羽化後すぐに活動、野焼きなどの影響も受けない

環境に慣れる時間を要さず、野焼き等の影響も受けません。

4．安価で安定供給が可能

5．サナギで出荷、ハウスへ置くだけ。

イチゴの促成栽培の例


カンナ屑に混ぜた
ビーフライの蛹


ビーフライの訪花


ビーフライの交配
で結実した果実



Japan Maggot Company
製造：㈱ｼﾞｬﾊﾟﾝﾏｺﾞｯﾄｶﾝﾊﾟﾆｰ

販売：アピ㈱　〒500-8558　岐阜市加納桜田町 1-1
TEL058-274-1138　FAX058-271-3876

ビーフライの導入方法

奈良県農業研究開発センター
２０１７年2月１０日



蛹が届いたら・・・

ビーフライの蛹は、パックにカンナ屑と一緒に入った状態で届きます（写真１）。
寒い時期は、羽化開始前に蛹をハウス内に持ち込むと、羽化に時間を要し、クモやアリに食害されるなど、他のトラブルも起きやすいので、次のような手順で導入します。

ステップ１

パックのフタを開けて、虫かご等に入れ、暖かい室内に置き、羽化を促します（写真２）。

羽化開始時期は、蛹の状態により異なりますが、２５℃程度ですと、約２～３日で羽化を開始します。

注）蛹が黒くなるのが、羽化開始の前兆です（写真３）。



写真１

ステップ２

羽化が始まったら、ハウス内に持ち込みます。

パックは、吊す、高い台の上に置くなどして、蛹が徘徊性クモ類に狙われないようにします（写真４）。

蛹が高温（４５℃以上：再確認中）にさらされると、羽化率が極端に低下しますので、パックには直射日光が当たらないようにします。



写真２

注意点

①羽化の早さは個体差があります。時期によっては、ほぼすべての蛹が羽化するのに２週間以上かかることがあります。

②ビーフライの寿命は2～3週間と短く、ミツバチと比較してハウス外に逃亡しやすいため、１～２週間ごとに継続して導入します。

③スピノエース顆粒水和剤とディアナＳＣは、殺虫効果が高いだけでなく、散布後かなり長期間（2週間以上：再確認中）羽化した成虫への影響が残りますので、ビーフライ利用中は使用できません。

④合成ピレスロイド剤も、ビーフライ成虫に対して著しく高い殺虫効果を示します。

⑤ハウス内は清潔に保つ必要があります。果実の残渣や動物の死骸などがあると、ビーフライはそちらに集まり、訪花しなくなります。

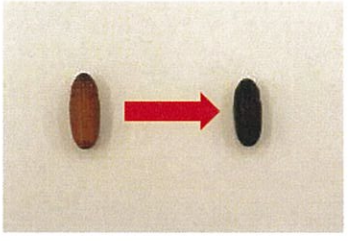


写真３



写真４

奈良県農業研究開発センターでは、(株)ジャパンマゴットカンパニー、岡山大学、島根県、農研機構西日本農業研究センターの協力のもと、生研支援センター「革新的技術開発・緊急展開事業（うち地域戦略プロジェクト）」の支援を受けて、ビーフライの利用に関する研究を実施しています。